

F—26 満足度からみた母親の生活意識、態度の研究(第1報)

—結婚生活の幸福度を中心として—

東京学芸大 ○田村 喜代  
石垣 和子

1. これまで、主婦の生活意識に因子分析を適用し、既に「満足」主因子を抽出したが、今回は、この主因子の内容である結婚生活の幸福度から、特に核家族形態の母親について比較群を構成し、各種の属性による背景的要因と夫婦関係の諸問題に関する内容の検討を行う。

2. (1)分析対象 昭和43年1月実施の調査対象計 838名(既報)から以下の3群とする。

H-幸福組, G-普通組, U-不幸組

(2)分析方法 項目分析により比較群の平均値並びに比率の検討を行なう。主要項目は属性の他に、結婚状況、住居、所有器具、くらし向き満足度、生きがい、夫婦の打ちあけ、意見調整、あらし等である。

3. 背景的要因では、高学歴の母に結婚生活の幸福度が高く、住居や耐久消費財に恵まれた家庭の母も同様で、くらし向き満足度との密接な関係が知見された。しかし、結婚経過年数の増大と幸福度とは必ずしも比例していない。夫婦関係の諸問題のうち、特色のあるものは、打ちあけの状況で、幸福組に完全打ちあけの割合が高く、あらしことも比較的少なく、意見相違については、不幸組よりも意見のくい違いが無い現状であった。

次回は、家族イデオロギー、生活感情、親子関係等の問題について報告する予定である。